

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成16年9月(2004年) No.465

第44回OMC映像フェスティバル

中央会館にて10月3日開催 発表プログラム決まる

来る10月3日(日曜日)13時より大阪市立中央会館にて開催されますOMC映像フェスティバルのプログラムがこのほど決定され、直ちに印刷にとりかかっています。今年も例年通り10月中旬を予定していましたが、中央図書館での大阪アマチュア映像祭が11月3日と早まりましたのでOMCの方も連動して早く開催することになりました。そのためプログラム編成作業が遅れ、印刷が遅れるハメになりました。

本年度は良い作品が多く、選考にうれしい悲鳴があがりました。公平に客観的に見て良い作品を選ぶため、全作品(146本)を全部拝見して評価点をつけて選ばせていただきました。紙一重で選に漏れた人もあり、来年を期して、年1本でもよいから「これぞ我が自信作」を作って頂くよう期待しています。

■上映プログラム

1) 南京玉すだれ：渡辺雄史 10分、2) 名水は今：森口吉正 8分、3) 桜：江村一郎 5分、4) 中之島公園：宮崎紀代子 5分、5) 春とうからじ：今井羨美 7分、6) 棚田のハニ族：山本正夢 6分、7) 微笑み大野葡萄^{ぶどう}：藤原純三 15分、8) ネパールの行商人：西村光雄 9分

9) やっさいほっさい祭：紙本勝 10分、10) パリの街角で：上総修一郎 6分、11) 神様はだんじりがお好き：安居利次 7分、12) 水上市場：有村博 9分、13) 凍れるとき：河合源七郎 7分、14) クロスヒル(ワイド)関 剛 9分、15) 沼島島祭(ワイド)：前田茂夫 12分、16) アラスカ大自然の中で：合原一夫 18分。以上16作品。観客動員にご協力ください。

9例会のお知らせ

9月例会は25日(第4土曜日)18時より、大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅OCATビル4階)にて開催します。このところ作品数も増えています。どうぞお早めにお越しください。フェス出品者は7,000円を会計へどうぞ。

8月例会のレポート

久しぶりにお顔を見せられた勝成忠さんが海外旅行の作品を持参されたほか、秦峰一さんの初出品作など全部で18本の多くの作品が寄せられ、時間一杯の上映となった。司会、合原氏、書記、関氏、映写係、江村、河合の両氏、受付兼照明係、森口、奥の両氏で会を進行しました。

■出席者：今井、江村、奥、上総、金子、紙本、河合、勝、黒田、合原、進藤、関、玉井、西村、華岡、藤原、秦、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺の以上29氏。

■上映作品(今月の講評担当は関世話役です)

1. 通路 増池 茂さん 5分50秒

地下鉄西梅田から大阪駅西口に向かう通路と聞いたが梅田の地下街にこんな壁画ができていたとは知らなかった。多分工事の仮の壁面だろう。西欧風の町並みにさまざまな人間模様がコミカルに描かれ、なかには騙し絵のようなものもあって面白い。

ところがその前を通り過ぎる人々はなぜか無関心。平日の昼間とあって通行人のほとんどがサラリーマンらしいのだが、興味をもつ暇もないほど忙しいのか絵には一瞥することなく去っていく。これら白けた表情の通行人との対比が作品に活かされていれば良いのだが、作者はただその壁画を丹念に撮っているだけ、ほかは何もない。

折角いい被写体を見つけたのにアイデア不足だったのが残念。

2. 春とおからじ

今井羨美さん 7分22秒

5月例会に出品、指摘された箇所を修正し改題しての再出品。重複になるのでここでは批評を省略するが、美しい墨絵を見るような秀作。10月のOMC映像フェスティバルで発表決定。

3. 須磨の浦(ワイド)

金子博泰さん 3分50秒

平家物語の琵琶の音とともに一の谷合戦で敗れ討ち死した平敦盛の墓、須磨寺境内の敦盛像、それを討った熊谷直実像、敦盛の首塚などが客観的映像で出てくる。平家物語の琵琶がナレーションを兼ねていると思うが、これだけでは作者の主張は見えてこない。撮り

方と構成を工夫してほしい。

4. 起こし太鼓

河合源七郎さん 6分00秒

飛騨古川の祭。夜間、頼れるのはわずかな投光器と焚火の明かり。おまけに冷たい雨。そのとき同行した私のカメラは12ルックスで焚火の周辺以外はなにも撮れなかった。ゲインは多少上がっているが、鮮明な映像のこの作品に、カメラの性能の違いをまざまざと見せつけられたおもいだ。

体からたちのぼる湯気が逆光に照らされたラストの臨場感はずばらしい。短い作品だが、それでも出発まえの総司の挨拶は長い気がする。

5. 万灯供養(ワイド)

江村一郎さん 6分40秒

四天王寺。無数に並んだ蠟燭の炎があらゆるものを朱色に染めていた。炎はそれを注視する人の心を幻の世界に導く不思議な魔力をもっている。作者が見る者の心理を意識した上での計算ずくだったのかは判らないが、20秒もの長い炎の超アップは、芯の形が変っていく様子にわけもなくつつい引き込まれてしまった。常識を越えたアップカットの長さ構成の妙。要するに炎のゆらめきがこの作品のもう一つのテーマなのかも知れない。

場内アナウンスをわざわざ説明がわりに取り入れたと言うが、司会者の意見どおりこれはノイズ以外のなものでもない。

いつもほぼ完璧と思える映像に仕上げながらどこかで初歩的なミスを犯す、そこがまたこの作者に親しみを憶える要因か。

6. 立石寺(りっしゃくじ)

岡貞夫さん 6分55秒

副題に「山寺」とあるとおり山の斜面にへばりつくように多くの堂塔伽藍が山上に向け点在している。休日なのか家族連れで沢山の人が参詣に訪れていたが、どうやら山形市民の手頃なハイキングコースでもあるらしい。姥堂と呼ばれるものの中に地藏と並んで恐ろしい形相をした像がアップで出てくるがその説明はない。それぞれの建物などの名はテロップで紹介していたが、この作品はナレーションが必要。ノンナレで済む映像と構成になっていない。

7. 天神さん 安居利次さん 5分20秒

作者がいま最も力を入れている、自らが出

演の仮説的幻想特撮映画？。だれも真似のできないユニークな発想で毎回楽しく拝見している。画面の中での仕草はかなり慣れてきたようだが表情はまだ堅い。ラストの「おち」は軽妙で実にうまいと思った。

ただご本人と影の声のQ&Aは、天神さんへの多岐にわたる欲張った願い事だが、その背景がほとんど天神祭の行事だったのはちょっと納得できない。それに、やりとりの「ま」が空きすぎていた。それは1秒か2秒。しかしその僅かな時間の空まわりが観る側にとってははらけてしまうのだ。つまりドラマ作りでいうカットつなぎのタイミングと同じ、と考えてほしい。

8. 水上マーケット

森田光春さん 8分40秒

タイのバンコクから車で2時間のところのデルタ地帯で、小舟に野菜、果物、日用品などさまざまな物を積んで売る、言わば舟の屋台が集まる場所だ。地元の人らしい客がそばを食べながらカメラに向かってオイシイと言っていた。朝食もここで済ませているのだろうか。炊事、洗濯、入浴から排泄物の処理まで、生活用水のすべてがこの川の水で、それでいて病気も起きないからこの辺りの人の体に合っているのだろう、とは作者の弁。陸上にも店はあるがこの主役はやっぱり舟。観光客が押し寄せる前にということで早朝からの取材だったらしいがもうひとつ活気がない。声を張り上げて客との駆け引き、といった場面がほしいところだが。

9. 御柱祭（建御柱）

紙本 勝さん 9分55秒

坂おとし、里曳き、川越し、そしていよいよ最後のクライマックス建御柱。巨大な樅の木が急な石段を上がり、境内を行進、所定の穴に据え、クレーンで建てられるまでを、歓声に湧く周囲の情景も含めて克明に撮っている。巨木を取り巻く大勢の曳き手とそれを見る大群衆、神社の境内が人々で埋め尽くされる中で三脚を立てカメラを構えるのは至難の技だが、そんな環境にもたじろがず自らの妥協も許さない作者の姿勢にただ驚嘆するばかりだ。「都合4回通った」とさらりと言っただけだが、その精神力の強さに頭の下がる思いがした。

10. ペルー世界遺産紀行

勝 成忠さん 10分00秒

まずはセスナに乗り、ナスカの地上絵を空から観察。テレビや写真でよく見る光景が展開するが、同乗者の頭がずいぶん邪魔をしていた。地上の展望塔からは、幾本かの線が見えるが何だか判らない。地上絵はやっぱり空から見るものか。次は列車とバスを乗り継いでマチュピチュへ。インカ遺蹟の精巧な石組みは何度見ても不思議に思った。最後は富士山より高いところにあるというチチカカ湖。なにもかも葦で出来た島？に上陸。足元がぶよぶよして歩き難くそうだった。炊事の火に油断して島が燃えたという笑えない話も。(ガイドの声)

情報時代だから作品で紹介された風景はほとんどの人が知っている。だからこそ親切なナレーションが必要なのではないか。

11. あじさい寺（ハイビジョン）

前田茂夫さん 5分30秒

ご持参のビクターハイビジョンカメラをプロジェクターのD4端子につないで映写した。花の葉脈の一本一本まで手に取るように判るほど鮮明な映像はさすがだと思うが、一般のアマチュアにはまだ馴染みが薄い。それはパソコンで編集するのに専用のソフトが要るからだ。いまのところ関西地区でハイビジョンの作品づくりをしているのは前田さんしかいないと思う。

作品は宇治の三室戸寺。つつじとあじさいで有名な古刹だが撮られたのはあじさいの季節で花のアップがすばらしい。とくに蓮の花は眼が醒めるように鮮やか。ハイビジョン映像のすごさを再認識させられた。

12. 夏の送り火（ワイド）

進藤信男さん 7分45秒

お互いに関連した行事と思うが二つに割れてしまった。前半は清水寺境内における護摩焚き。山伏の問答は、それが不可欠の儀式にしても長すぎる。護摩に点火後カメラのそばで騒ぎ立てる子供の声。その映像がないから余計に気になった。

一変して夕暮の鴨川畔の情景。ゆかた姿の女性たちが三々五々集まってくる。やがて暗闇の中に大文字が炎で浮かび上がり、河畔の拍手と歓声で終る。

この題名なら護摩焚きはまったく異質のものとしか思えない。鴨川の情景には秀逸な映

像もあったが、ここだけでは極端に短く作品は難しい。素材がこれで全てというのなら来年の機会を待つかないだろう。

13. ブルーハネムーン

藤原純三さん 8分00秒

あるクラブの撮影会作品。ビデオ趣味の主人公が妻を伴って公園に遊びにきたが、予備テープがないことに気づき町へ買いに走る。待たされていた妻の前に暴漢が現われ大立ち回り。そこへ戻ってきた主人公、チャンスとばかり撮っているところを妻が発見し怒り心頭。カメラを取りあげるなり地面に投げつけさっさと立ち去る。バラバラに壊れたカメラとあわてて妻のあとを追う主人公。で幕、というコミカルドラマ。これが落語の語りで行っていく。

シナリオと演出家を尊重して個人的批評は控えるが、たまにはこのような撮影会があっても面白い。

14. 高僧来たる

山本正夢さん 8分40秒

インドシナ半島から戻ってきた作者、今度は中国の辺境を旅しておられるようだ。チベットの理糖。ラマ教寺院で彩色した砂を撒いて曼陀羅を描く僧侶たち。もう少し詳しい映像があれば良かったのだが。

広い草原を人々がマニ車を回しながらひとつの場所に向かって歩いていく。高僧を迎えに行くのだという。黄色い鬘の帽子を被った正装のラマ僧がアルペンホルンに似たトゥン・チェンを吹き鳴らすと、やがて馬に跨がった高僧が到着。祠のようなところが煙に包まれ、人々がひれ伏し、お祈りが行なわれているらしいが、何のお祭りかは判らなかった。長いあいだ海外旅行を続けているといろんな偶然に出逢うという作者。今後も珍しい映像を撮り続け、見せていただけるのを期待しよう。

15. 緑と白の交響曲

山口幸代さん 7分45秒

ヨーロッパ旅行の記録と聞いていたから「白」は中世の建物の色と思ったが…と、司会者。実は滝の「白」。現地発行の案内書にこの形容にたとえた滝の写真がある。作者は多分ここから引用したのだろう。

題名を見ただけで内容が判ってしまうのも能がない。さりとしてひねくれた題をつけたが

誤解されて逆効果の場合もある。題名のつけ方は事程左様に難しい。

それはともかく、クロアチアのプリトヴィツェ国立公園は16の湖が大小無数の滝で結ばれているユネスコの世界自然遺産で画面に出てくるのはその一部。滝だけではつまらないが、作者の構成はバラエティー豊かで飽きさせない。よくぞこれだけカットを捨てたなと旅の同行者だった私も驚いている。初めてのナレーションだが音楽に隠れて聞き取れないところがあった。

16. ルネッサンス協奏曲(ワイド)

関 剛(筆者) 7分50秒

先月の山口さんの「街角の出逢い」とおなじクロアチアの世界遺産の街ドブロヴニク。少々乱暴な手法だが、紀行の常識にとらわれず目先を変える意味で作ってみた。大阪アマチュア映像祭に出品予定。

17. よみがえった浄園

玉井 さん 14分30秒

昨年4月と5月の「来迎浄土万灯会」で指摘されたところに手を加えられ、再々度の出品。(あらかたの内容は448号参照) 淡々としたナレーション。作者の優れた技量、構成力が如実に表れた秀作だがインタビューが多い。かつての作者の作品にこういう手法はあまり無いと思ったがどうなんだろう。いまは地方自治体主催のコンテスト流行り。なぜかテレビの作り方を真似たのが上位に入るといふ。

それが最近の風潮かも知れないが、これはインタビュー無しでも作者の心象は理解できた。私はやっぱり「当尾心象」、「竹の精霊」のような作り方が好きだ。

18. 火祭讃歌 秦峰一さん 15分18秒

場所がどこだか不明だが初めて見る火祭り。太さ1m以上はある草の束を青竹で囲んだ、どこかカップケーキの形に似た大松明が数基。それに火をつけ、揃いのゆかたを着た男たちが担いで神社の境内を練り歩く。松明それぞれ氏子の町は違うのだろうが区別がつかない。その上ほとんどロングで撮られているので火と言えどもまったく迫力がない。これは昼間の行事のせいもある。しかし省略しても内容に影響しないところがずいぶんあったようだ。半分ほどに再編集すれば良くなると思う。